



中播磨 風土記

額紫陽花（ガクアジサイ）雨に似合う花ですね。種類の多さに驚きます。興味で故辞書を覗くと「あぢさゐ」と書かれており、八重に競って咲き誇る努力の花とされ、755年当時から上層階級の宴の添え花として重宝され、威徳教材にされたようです。日本古来の花で、後に輸出され改良されて出戻ってきたのが「セイヨウアジサイ」で、これがまた可愛いです。（生活創造応援隊 高野 雅一）

ぶら〜り町歩き

伝統工芸品、歴史的建造物、おすすめのレストランなど…中播磨地域に住む記者が「行ってみたい」と思う、こんなところをご紹介します！

渡辺金属工業
【姫路市南八代町】



お出迎えしてくれたロボットと記念撮影



OBAKETSUの商品を見学する隊員達

日本製にこだわりバケツを作り続けて100年 「使う人のことを考えた“一生使える”バケツづくりを」

姫路のバケツが有名らしい、との情報を得、取材に行きました。姫路にいながら何の知識もなく、工場をナビに入れ探しながら訪れた場所は、住宅街の一角にあり、目印はバケツで作られたオブジェでした。渡辺金属工業4代目社長の渡辺政雄さんにお話をお伺いしました。

1923年に姫路の城下町にある自宅の片隅で、小さな作業場を開かれたのが始まりで、小さな部品ひとつまで日本製にこだわり、サビに強く、壊れにくく、使うほどに愛着が深まるバケツを作り続けて100年になるそうです。「使う人のことを考えた“一生使える”バケツづくりを」という創業者の想いから生まれた職人の技と信念がその歴史を支えてきましたとお話されました。創業当時から作られている銀色のバケツは大正バケツと呼ばれるそうで、今も我が家で活躍しています。

40年前からオバケツ（OBAKETSU）シリーズを出され、今までのバケツのイメージと違いサイズとカラーのバリエーションが豊富で、いろんな用途で利用されているようです。展示室には、米びつ、野菜ストッカー、おむつ消臭ペール、蚊遣り、傘立て等のいろんな種類の可愛いオバケツが並んでいました。海外でも人気があるそうです。社長の渡辺さんは、確かな技術と想いを次の100年へ守り継ぐために新たな一歩を踏み出し、数百、数千、数万のバケツを作っても、ただ一人の使う人のことを考えて、30の工程を、ひとつひとつ心を込めて大切に作りますと熱く語られました。工場を見学させて頂きましたが、ひとつひとつ丁寧にオバケツを作られていました。姫路市のふるさと納税品として登録されていると言われていましたが、姫路の伝統工芸品としてもっとPRして、伝承してってくださいとお願ひしました。私も可愛い赤色のミニ蚊遣りオバケツを購入してきました。バケツの認識が変わり、私たちがまだまだ知らない姫路の自慢できるものがあることを知りました。



OBAKETSU製造工程の説明の様子



渡辺社長(右側)への取材の様子

取材・原稿／【生活創造応援隊】大野 律子、小國 冷子、木村 利恵子

中播磨県民センターからのお知らせ



「ひょうごフィールドパビリオン」とは？

ひょうごフィールドパビリオンは、地域の「活動の現場そのもの（フィールド）」を、地域の方々が主体となって発信し、多くの人来て、見て、学び、体験していただく取組です。

「継ぐ・伝える」～伝統文化の魅力に迫る～

フィールドパビリオン認定プログラムのひとつである姫路市飯田にある江崎福王会にて能楽の体験をさせていただきました。「能楽」と聞くと、難しく格式が高いイメージを持っていました。しかし、日常生活で何気なく使っている言葉が、実は能楽から生まれていることや、想像していたよりも身近なものであることを知り、驚きました。最初に、能楽にはダジャレがたくさん含まれていることや、雛祭りの五人囃子の笛太鼓の並順のことなど、親しみやすいお話をしていただき、能楽へのイメージが少し変わりました。次に、謡曲「高砂」を拝聴しました。謡いが始まると空気が一変、圧巻でした。



謡曲「高砂」を謡う江崎欽次朗さん



すり足体験の様子



「高砂染」の狂言衣装

最後に、すり足体験をさせていただきました。目線の高さを一定に保って、手を出し、すり足でゆっくり歩く。普段の動作と異なり、目線・手・足のすべてに意識を集中させながら歩くのは、非常に難しかったです。今回の体験を通じて、能楽は決して難しいものではなく、知れば知るほど面白いものであると感じました。江崎さんは、能の解説マンガの制作や子ども教室の開催などの活動をされる中で、より多くの人たちに、能楽に触れる機会を提供することが課題であるとお話しになっていました。みなさんも、古き良き地域の伝統文化にふれてみてください。

2025年大阪・関西万博開幕1年前イベント

万博開幕まであと1年となりました。4月24日（水）中播磨県民センターにおいて、フィールドパビリオン認定プログラム提供者を対象に、万博会場でのPRに向けたキックオフミーティングが開催されました。参加者は、万博会場での出展内容を考えるとともに、課題や解決策についてワークショップ形式で活発な意見交換を行いました。これを機に、認定プログラムの内容がさらに充実され、より多くの方に提供されることを楽しみにしています。



平榎 武さんによる説明



ワークショップの様子



グループワークの成果

フィールドパビリオン県民モニター募集

フィールドパビリオンを実際に体験してもらい、各プログラムがより魅力的になるよう、県内の団体・グループが、ひょうごフィールドパビリオン認定プログラムを体験するための費用を助成します。

- (1) 対象団体 県内の10名以上の自治会、子ども会等の地域団体・グループ
- (2) 対象経費 ①ひょうごフィールドパビリオン認定プログラム体験料（消費税は除く）
②体験にかかる交通費
- (3) 補助率 補助対象経費に応じて定額（上限4万円）



申請QRコード

消費生活情報～くらしに役立つ情報をお届けします～

事例1 宅配業者名でSMSが届いた。ちょうど荷物が届く予定だったので、SMSに書かれていたURLをクリックして、記載されていた指示どおりに、IDやパスワード等を入力した。しかし、その後11万円を不正利用されていたことが分かった。(60歳代)

事例2 スマートフォンに「ETCカードを更新するよう」とのメールが頻繁に入るようになった。所有しているクレジットカード会社発行のETCカードの手続きが必要なのかと思い、URLを開いてメールアドレスやパスワード、クレジットカード番号等を入力した。その後、カード会社に連絡をすると覚えのない決済があり、1万2千円が使用されていた。(70歳代)



見守り
新鮮情報

SMSやメールでの フィッシング詐欺に注意

ひとこと助言



正規のサイトから
アクセスしよう

見守るくん

- 実在する組織をかたるSMSやメールを送信し、IDやパスワード、暗証番号、クレジットカード番号等、個人情報を詐取したうえ、クレジットカード等を不正利用するフィッシングに関する相談が多く寄せられています。
- 記載されているURLにはアクセスせず、事前にブックマークした正規のサイトや正規のアプリからアクセスするようにしましょう。
- フィッシングサイトに個人の情報を入力してしまうと、クレジットカードや個人情報を不正利用されるおそれがあります。絶対に入力してはいけません。情報を入力してしまったら、同じIDやパスワード等を使っているサービスを含め、すぐに変更し、クレジットカード会社や金融機関等に連絡しましょう。
- IDやパスワード等の使い回しを避けることで被害の拡大を防ぐことができます。
- 困ったときは、すぐにお住まいの自治体の消費生活センター等にご相談ください(消費者ホットライン188)。

本文イラスト：黒崎 玄

見守り新鮮情報 第479号 (2024年4月11日) 発行：独立行政法人国民生活センター

消費生活出前講座のご案内

インターネットを介した架空請求や悪質商法等による被害が後を絶ちません。中播磨県民センターでは、そんな消費生活トラブルについてお話しする講師を派遣しています。

- ▶ 時間帯 平日10:00～16:00 (申込者の希望に対応します)
- ▶ 費用 無料です。会場は開催団体でご用意下さい。
- ▶ 講師 中播磨県民センター県民躍動室県民課 消費者教育推進員

※詳細は、中播磨県民センター県民躍動室県民課(下記連絡先)までお問い合わせください。



はじめまして、私たちは令和6年度「生活創造応援隊」です。
中播磨地域の話題や情報を提供していきます。よろしくお願いします！



植原 邦子 (姫路市) 梅本 知恵子 (姫路市) 大野 律子 (姫路市) 木村 利恵子 (姫路市)
高野 雅一 (姫路市) 田路 和子 (姫路市) 玉谷 康彦 (姫路市) 筈井 公美子 (姫路市) 以上8名

しんぶんを通して、人のWa'・平和のWa'・話のWa'など限りないWa'に出会いたい...そんなWa'を伝えていきます。
(生活創造応援隊 一同)